

# 平成27年度議会改革推進会議 先進地視察報告書

議会改革推進会議先進地視察を実施したので、下記のとおり報告する。

議会改革推進会議

## 記

- 1 調査期間 平成28年2月16日（火）～2月17日（水）
- 2 調査先 千葉県袖ヶ浦市
- 3 調査委員等 中平浩志座長、桑田鉄男副座長、山口健一委員、濱欠明宏委員、澤里富雄委員、佐々木栄幸委員、上山昭彦委員、豊巻直子委員、畑中勇吉委員代理、澤口道夫議会事務局長、大石美奈主査、長内紳悟主任
  
- 4 調査事項及び調査結果  
○千葉県袖ヶ浦市  
・議会友好交流の充実について（表敬訪問及び合同研修）
- 5 調査結果  
別添のとおり

## 千葉県 袖ヶ浦市

- 1 日 時 平成27年 2月16日（火） 午後 2時00分～午後 5時00分
- 2 場 所 袖ヶ浦市役所、袖ヶ浦市市民会館
- 3 応対者 出口清 市長、田邊恒生 議長、笹生猛 議会改革推進特別委員会委員長、篠崎典之 議会改革推進特別委員会副委員長、武井隆文 議会事務局局長、根本博之 議会事務局副局長、生方和義 議会事務局副参事、大田歩 議会事務局主査、原田拓 議会事務局議事調査班長

### [合同研修会出席者]

田邊恒生 議長、塚本幸子 副議長、山口進 議員、山下信司 議員、粕谷智浩 議員、在原直樹 議員、笹生典之 議員、緒方妙子 議員、篠原幸一 議員、村田稔 議員、鈴木憲雄 議員、佐久間清 議員、前田美智江 議員、長谷川重義 議員、篠崎龍夫 議員、茂木芳和 議員、砺波久子 議員、佐藤麗子 議員、笹生猛 議員、榎本雅司 議員、阿津文男 議員、篠崎典之 議員、渡辺盛 議員

#### 4 袖ヶ浦市の概要

- (1) 位 置 東京湾沿い、千葉県のほぼ中央に位置する。
- (2) 沿 革 平成3年4月1日市制施行により袖ヶ浦市となる。
- (3) 総面積 94.92平方キロメートル
- (4) 人 口 62,100人（平成28年2月1日現在）
- (5) 議員定数 24人

### ○議会友好交流の充実について

#### 《概要》

平成26年7月23日に久慈市議会と袖ヶ浦市議会との間で締結された議会友好協定に基づき、両議会の活性化と友好交流の充実を図るため、久慈市議会 議会改革推進会議・袖ヶ浦市議会 議会改革推進特別委員会の合同研修会を実施した。

なお、合同研修会の前には、出口清 袖ヶ浦市長、田邊恒生 袖ヶ浦市議会議長への表敬訪問を行った。

合同研修会は、「『対話』が創る議会からの地方創生」を研修テーマに、青森中央学院大学准教授 佐藤淳氏を講師に迎え、久慈市議会 かだつて会議・袖ヶ浦市議会 カフェ ドギかいの両取り組みを踏まえた内容による、両議会議員同士のダイアログ（対話）を取り入れた形式で行われ、両議会の活性化と友好交流を深めた。

## 《所感》

### 【中平浩志座長】

議会友好交流を通じて、両議会が共に進めたワールドカフェ方式による住民対話「かだつて会議」「カフェドギかい」であるが、各々取り組みを通して共通課題も生まれていた。

今回の先進地視察では、その取り組み課題を振り返り、さらに今後の取り組みの方向性のヒントとなる研修機会となったことの成果は大きく、また両議会の交流が深まる機会となったことはとても感慨深い。

今後、研修を踏まえ両議会がさらに取り組みを前進させると思うが、これから先、生まれてくるであろう課題についても、再度、合同研修として実現できるよう、切磋琢磨の精神で取り組みを進めたいと思う。

なお、今回の訪問で互いの往来は9回目を数える。出口市長への表敬訪問も叶ったことから、議会間の交流もさることながら、今後はさらに地域間の交流へと発展できるよう尽力したい。

### 【桑田鉄男副座長】

ご多忙の中、出口市長さんにもお時間をとっていただき、いろいろな事を話していただき良かったと思います。（昭和45年岩手国体出場の話には驚きました。）

一つの議会でなく、複数の議会の議員が共通の話題についてワークショップ形式で話し合うというのは初めての経験であったと思いますし、少人数グループということで意見も出しやすく、非常に有意義であったと思います。

話し合う時間がもう少しあればと思いましたし、全体の時間も少し不足しており、まとめ的な事ができず残念でした。（グループ毎のフリートークは良いのですが、言いつ放しになった感がありました。）

前段で話した、複数議会で一つのテーマについて話し合うことについては、今後とも共に取り組むべきと思いました。

交流会の中で田邊議長さんから、議員定数について話を聞かせていただき、勉強になりました。

毎回のよう、袖ヶ浦市から東京駅まで送っていただき感謝です。

### 【山口健一委員】

私は議会改革推進会議の一員として友好を交流進めている、千葉県袖ヶ浦市に2月16・17日、議会友好交流の充実をテーマに研修してまいりました。

初めに袖ヶ浦市長を表敬訪問を行いました。市長と様々な意見交換することが出来ました。今、議会が先行して交流していますが、今後当局や民間レベルでの交流が盛

んになり、両市の交流が深まるよう期待するものです。

その後場所を移動して私たちと、袖ヶ浦市議会議員全員が一緒になって、青森中央学院大学の佐藤先生を講師に「対話」が創る議会からの地方創生をテーマに研修しました。初めに本年マニフェスト大賞に輝いた可児市の取り組みについて、また、滝沢市など先進地の取り組み等について学びました。

その後、袖ヶ浦市議会議員と私ども交流メンバーが合同でワールドカフェ方式で会議を開きましたが、テーブルのメンバーは議員だけなので硬い雰囲気もありましたが、会議の進め方やテーマの設定などで会議の質が変わるとのことで、今後私どもが、かだて会議や議会報告会を進めるにあたり、実りある研修となりました。

### 【濱欠明宏委員】

改選後初となる袖ヶ浦市への訪問であり、また今回は議会改革推進会議の委員としての参加でもあった。

両議会ともに新議長のもと、議会改革の共通課題について研修できたことに今後の交流発展の可能性を感じる。

青森中央学院大学の佐藤先生による両議会合同での対話を交えた研修は、まさに「対話」の重要性、そして対話・議論・討論の使い分けの重要性ということであった。

合議制である議会にとって、話し合うことは民主主義が健全に作動するための基本となることから、対市長だけでなく、対住民、対議員の間でももっと充実させていくことが大切であると感じた。さらに話し合いの目的・内容に応じて対話・議論・討論を使い分けていくことが大切であると感じた。

両議会合同での研修は大変意義深いものであったし、また今回は出口袖ヶ浦市長を表敬訪問することができたことから、今後の両市の交流に期待する。

### 【澤里富雄委員】

袖ヶ浦市には、議会友好交流のため4回目の訪問でありましたが、毎回、心のこもった歓迎ぶりに感謝の念でいっぱいです。

今回は、「対話で創る議会からの地方創生」と題し、青森中央学院大学の佐藤淳先生の研修で、地方創生を実現させるための対話の重要性について学びました。

対話は利害関係のある当事者同士や、価値観の違う者同士がお互いの意見を受け止め、最適な答えを導き出すことと、会議の議論が深まるように進行するファシリテーションの技術が重要ということ、又、ホワイトボードや小物類や雰囲気創りの大切さを改めて感じました。

久慈市議会として、さらにワークショップ・ファシリテーションの研修会の実施が

必要と考えます。

袖ヶ浦市議会において「カフェドギかい」が実施されました。お互いまだ実施回数は少ないですが、久慈市議会の「かだつて会議」と「カフェドギかい」の情報交換をし、議会活動に活かしていけば友好議会はさらに深まるものと思います。

### 【佐々木栄幸委員】

久慈市議会と千葉県袖ヶ浦市議会は、平成25年5月から「議会改革」等様々なことをテーマに、研修・交流会を重ね、平成26年7月23日に袖ヶ浦市議会と全国でも初めての「議会友好交流協定」の調印式を結び、市長表敬訪問を受けた。

その袖ヶ浦市議会との合同研修会の前に出口清袖ヶ浦市長に表敬訪問。中平議長が今年は岩手国体があり、久慈市は「柔道」が会場で大変ですと言うと、出口市長は袖ヶ浦市の説明・PRをしながら、実は昭和45年の岩手国体の時、「ボート」競技で参加し、終了後、東北をあちこち観光してきたことが懐かしく思い出されると言っていた。何となく御縁ある関係であったなと感慨深く感じた。

また、「ガウラ」というマスコットキャラクターを市職員のアイデアが採用され、バッチやマスコット、縫いぐるみも作られ、市職員の意気込みを感じた。

その後、東北地方の複数の議会のアドバイザーを務めている青森中央学院大学の佐藤淳准教授の研修を、ワールドカフェ方式で受けた。これは、「カフェ」でやると人々がオープンに自由に気兼ねなく話せると言う考えに基づいた話し合いの方法という。

研修会のテーマは、「対話」が創る議会からの地方創生」と題して、袖ヶ浦市議会22名、久慈市議会9名。話しやすい雰囲気のポイントとして、テーブルクロスは「クロアチア柄」（赤と白のチェック）、BGMは「ボサノバ」。テーブルには7・8人座り、その上には白い模造紙を置き、様々な色のマジックを用意し思った事をメモしていく。

聞きっぱなしで帰るのが従来の研修であるが、今日の研修は①聞く、②考える、③「対話」する、④気付く、という方法で進めるのが本来の望ましい研修会のあり方。

全国の議会は4種類に分類されるが、①「居眠り議会」（うちは出来ているから、議会基本条例なんて不要）ではなく、②「目覚めた議会」（まずは議会基本条例を作ろう）でもなく、③「したふり議会」（議会基本条例は作ったが…）でもなく、④「真の議会改革」《成果を上げるための不断の努力・成果を実際に出す》、これが我々が目指す議会であるという。

そこで、実際にそのように取り組み、マニフェスト大賞議会部門グランプリを受賞した岐阜県可児市議会が紹介された。地元医師会の協力を得て、可児市議会が主催・講演の地域課題懇談会を開催。また、子育てに関わる事業者等の協力を得て高校議会

を実施し、さらには高校生と可児金融協会の協力を得た意見交換。その他に初の出前講座として、高校生と「18歳選挙権」を課題に議会が開催し地域課題座談会。このように高校生や他業界・団体等と多文化共生について対話しているのが真新しく感じられた。また感想の中にも、「地域に貢献できる人間となり、地元に戻ってきたい」とあったが、成果の粋を感じた。

ここで早速、自己紹介したり、感じたことをお互いに話しながらお互いにマジックを走らせた。そしてまた研修に。そこで「話をする」「話し合いをする」とは何ぞやということになった。「対話」(ダイアログ)とは、互いの立脚点を明らかにして相手を論破する「討論」ではなく、互いに耳を傾け、意見の多様性を知り、新しい知見を得る。

その「対話」が実践されるべき所は、市民との意見交換会「議会報告会」である。市政課題への認識を共有し、課題解決を協働。それが「議会改革」。「議会報告会」のあり方として、対象者、会場配置、テーマ、会場進行、説明資料がどうあれば良いか。そう考えた時、対面式(お互い挑戦的になる)よりは、ワークショップ式(お互いに語り合いの形になる)のほうが望ましい。それを実行しているのが、久慈市議会の「かだつて会議」、また滝沢市議会の「議会フォーラム」、それから北海道芽室町議会の「議会フォーラム」であると紹介された。そのためには、偽物の「対話」「ワークショップ」「ファシリテーター」(進行役)を作らない。

「対話」は一方通行にならないように、双方向になるようにお互いの思いを理解する。「ワークショップ」の目的は、良いアイデアを出すだけではなく、参加者が実行する思いにさせること。「ファシリテーター」は、上手くまとめるだけでなく、やる気持ちを起こさせ、いかに行動に移させる気持ちにさせることだという。そこまで持っていくポイントとして、「問い」の工夫。課題を行動に結びつけるまでの一連の流れをフローで考えること。現状を全体的に把握し、ありたい姿を考え、行動に移させる。またここで話し合いをする。出た結論をどうすればその方向に持っていけるか。

それは「議員間討議」をしながら、論点整理をし、政策提言を前提とした意見のすり合わせや、議会運営の意見のすり合わせが必要になる。それによって出された内容が議案の修正や、付帯決議、陳情・請願の決議、議員提案条例に繋がり、議会の評価・基本条例の評価、評価への市民参加と信頼されていく。これこそが開かれた議会であり、市民の市民による市民の議会であると思う。

私たち久慈市議会もそれなりにやってきているので、このような形で模索しながら急がずに実行していけば、そのうちに市民に評価され、他に及ばないことはないと思う。

### 【上山昭彦委員】

友好協定を締結し一年が経過する千葉県袖ヶ浦市議会との友好交流の充実を図るため、袖ヶ浦市議会を訪問し、議会改革推進会議の研修を行った。過日、袖ヶ浦市議会が当市議会の「かだつて会議」を参考として開催した「カフェ ド ぎかい」は、概ね良好な開催となったようであるが、当議会との友好交流と「かだつて会議」の次回開催に向けて更により良いものとするため、佐藤先生に検証していただく目的も含め、今回の研修は絶好の機会であった。

佐藤講師の講演の重点は、「対話」が重要であるとのことであり、議会改革を進めている各議会においては、対話を重んじる議会が増えているようである。

袖ヶ浦市議会では、まだ議会報告会を開催していないようであるが、当議会のかだつて会議の様に、ワールドカフェスタイルで市民との意見交換の機会を設けたようである。議会報告会は対面方式での開催を始めることが多いようであるが、対立的になり、特に女性には発言しにくい環境になるとの話がなされた。発言したくても発言できないような女性の話しやすい環境づくりが大切であると思われる。

また、講演会の中では他市議会の取り組みとして、可児市議会では高校生議会が開催され、日ごろ地域のことを考えたことがない高校生が高校生議会を行うことにより地域のことを深く考えるようになったこと、地域に愛着がわいたことなどが紹介された。社会人に近い高校生が議会を通じて地域のことを考えるようになることは、地元を愛することにつながり、将来の地元での就業へつながるなど大変に意義深いことで、キャリア教育の一環としてもすぐれており、当市議会でも取り組めることの一つと考えられる。

さらに、講演の中で印象に残ったことは、冒頭にも述べた「対話」の大切さである。議員間での討議はもちろん重要であるが、対話の中で、互いの意見の違いに耳を傾け、その問題についての新たな情報を知ることにより多様性を感じ取り、新たな情報として考察することの必要性を考えさせられた。

当議会では、各議員の議会改革への意識向上により、市民との距離が幾分ではあるが縮まったように感じる場面も見受けられる。議会報告会での取り組み方や「かだつて会議」の方向性など、検討課題もまだまだ多くあることから、それらを後退させることの無いようさらに市民に開かれた議会を目指す努力をしていきたい。

### 【豊巻直子委員】

- ・「対話」の重要性を改めて考えた研修になりました。「会話」ではなく、「議論」でもなく、「討論」でもない、「対話」の重要性を。
- ・市民との間でも「対話」、議員間でも「対話」。
- ・「対話」のメリットは、双方の意味づけの確認、合意の形成と前向きな次のアクション

ョンへの動機付け。(自分事化)

- ・早く久慈でもやってみたくなりました。どの場面でどのように導入するか話し合うことが必要です。

#### 【畑中勇吉委員代理】

- ・青森中央学院大学、佐藤先生から説明された、全国議会の4分類、いわゆる「居眠り議会」「目覚めた議会」「したふり議会」「真の改革議会」の4分類の中で我が久慈市議会は、どこに属するかである。そして、目標とする「真の改革議会」になるための現状認識と、今後の課題をしっかりと共有しなければならない。
- ・久慈市議会は、改革に目覚め、「真の改革議会」を標榜し、市民福祉の向上や人口減少、高齢化社会がもたらす難題を解決し将来に希望を持てるような議会改革の推進や成果が出たと評価されるまでに至っていないと思う。
- ・そういう意味で、佐藤先生からダイアログで講議のあった、議員間の対話、会話を充実させることによって、問題の本質を掘り下げ、新しい方向性を議員間の共通認識のもとに見出すことができるのではと考える。
- ・「百聞は一見にしかず」という格言があるが、先進地での研修等が大事であるが、それ以上に、研修目標とする事前の調査、学習が重要であると思いい層の充実が必要である。
- ・袖ヶ浦市長に今回表敬訪問する機会を頂き感謝していますが、市長あいさつで、袖ヶ浦市は、羽田空港に22分、東京都心にも40分程度と近く、東京24区だと言っていました。アクアライン開通によって地理的条件に優れ、素晴らしいなと感じたが、子育てや高齢者介護等、現状、将来に課題を抱え、我が久慈市は、人口減少、消滅都市の危険が迫る地域でもある。今後は、議会の交流にとどまらず、産業、観光など幅広い、交流発展を継続させたいものである。